

甘デジ派 3倍に増加 ライトユーザー化が進行

アミューズメントジャパン&P-WORLD 共同企画

弊社は2007年10月末にP-WORLDと共同で、「2007プレイヤー動向調査」を実施し、現在の遊技動向を調査した。P-WORLD閲覧者はパチンコ・パチスロプレイヤーであり、比較的情報収集に熱心な層であることに留意したうえで、以降の記事を読んでいただきたい。

調査要領

- 調査対象者：P-WORLDを訪問したパチンコ・パチスロユーザー
- 調査方法：インターネットによる調査。P-WORLDのトップページに設けたバナーからアンケート画面に移動し回答してもらう方法。パソコン版のみで携帯版の画面はない。
- 調査期間：2007年10月25日から28日の4日間
- サンプル数：2,309票



表2 年代

	2007	2006
20歳未満	1.4%	2.2%
20～24歳	15.6%	14.9%
25～29歳	19.3%	17.6%
30～34歳	23.6%	24.4%
35～39歳	20.9%	18.7%
40歳以上	19.1%	22.1%

表1 性別

	2007	2006
男性	89.3%	87.8%
女性	10.7%	12.2%

表4 1回あたりの平均投資額

	2007	2006
1万円未満	9.5%	5.8%
1万円～2万円未満	41.3%	28.3%
2万円～3万円未満	35.0%	38.5%
3万円～5万円未満	12.0%	22.1%
5万円以上	2.2%	5.3%

表3 パチンコ・パチスロの遊技割合

	2007	2006
パチンコのみ	22.7%	23.7%
おもにパチンコ	18.8%	7.9%
それぞれ同程度	17.0%	15.1%
おもにパチスロ	29.9%	35.7%
パチスロのみ	11.6%	17.6%

パチンコ派が増加
平均投資額は少額化

回答者の属性を表す調査結果が表1～表4。回答者の年代は、30歳代前半が最も多く23・6%。年齢層の構成比は前年同時期の調査とほぼ同じであった。パチンコ派（パチンコのみ遊技+おもにパチンコを遊技）とパチスロ派（パチスロのみ遊技+おもにパチスロを遊技）の割合がともに4割でほぼ同数（表3）。前年の調査と比べ、パチンコ派は10ポイント増加し、パチスロ派は12ポイント減少している。

遊技1回あたりの平均投資額は、「1万円以上～2万円未満」が41・3%と最も多い（表4）。前年の調査と比べると、平均投資額は明らかに少額化している。遊技頻度を1年前と現在について尋ねたのが図1と図2で、明らかに遊技頻度の低下が見てとれる。週5日程度（ほぼ毎日の頻度で遊技していた人の割合は、1年前には30・8%であったが、現在は半減し16%である。（※前年調査との比較ではない）

甘デジプレイヤーが
前年の3倍に増加

現在好んで遊技しているスペック・タイプをパチンコ派、パチスロ派それぞれに尋ねた。

パチンコにおいては、スペックごとのフ

図2 現在の遊技頻度

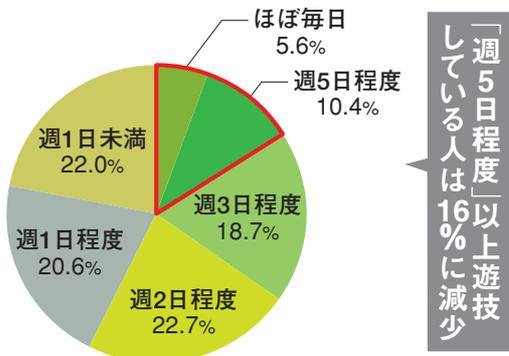


図1 1年前の遊技頻度

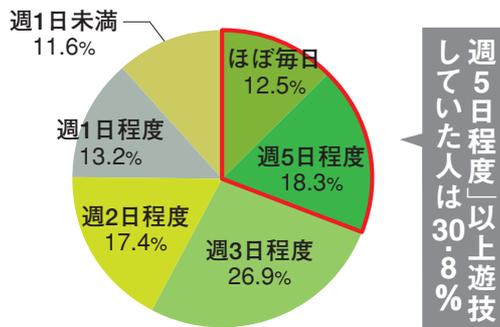


図4-1 おもに遊技するパチンコタイプ

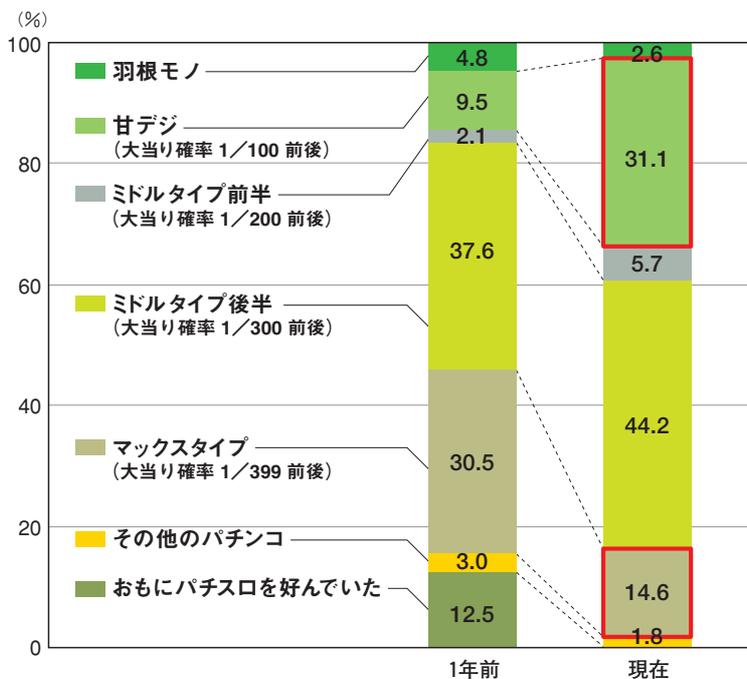
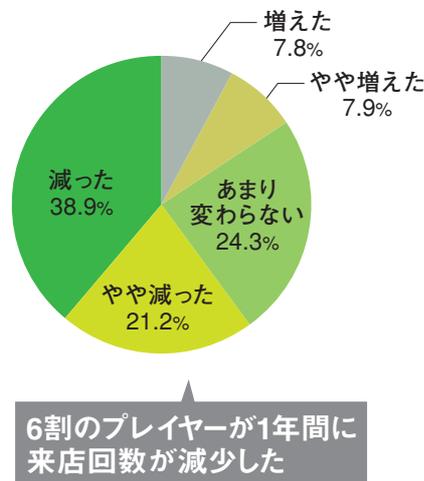


図3 最近1年間の来店回数の変化



甘デジ派が3割に増加
マックスタイプ派は半減

6割のプレイヤーが1年間に
来店回数が減少した

低玉貸し遊技(パチンコ・パチスロ)の経験者は46・3%で、「知らなかった」という層はわずか0・8%にすぎなかった。経験者に対しては今後の再遊技意向を、未経験者に対しては今後の参加

**低玉貸し遊技
経験者の4割がリピート意向**

現在甘デジを好んでプレイしている層が、1年前にどのスペックを好んでプレイしていたかを調べたところ、ミドルタイプ後半(37・8%)、甘デジ(20・4%)、マックスタイプ(18・4%)。この結果から、「パチンコに遣えるお金が少なくなったから甘デジを打つようになった」という層が多いと推測できる。所得格差社会の進展や可処分所得の減少が、遊技スペック選択に影響しているとすれば、ますます甘デジ派は増えるはずだ。

アン構成比が1年で大きく変化した。(※約17%存在する、PS同程度遊技する層を除いている)。現在のプレイヤー構成が多いのは、ミドルタイプ後半(大当り確率1/300前後)、甘デジ(図4-1)。ミドルタイプ後半は、『必殺仕事人Ⅲ』『倅田来未』『海シリーズ』の導入台数からもうなずけるが、突出したヒット機がないにもかかわらず1年前の3倍に増えジャンルを確立した甘デジは今後も注目が要だ。予想通りだが、1回あたり投資額が低い層ほど甘デジ派の比率が高い(図4-2)。

図4-2 おもに遊技するパチンコタイプ (1回あたり投資金額別)

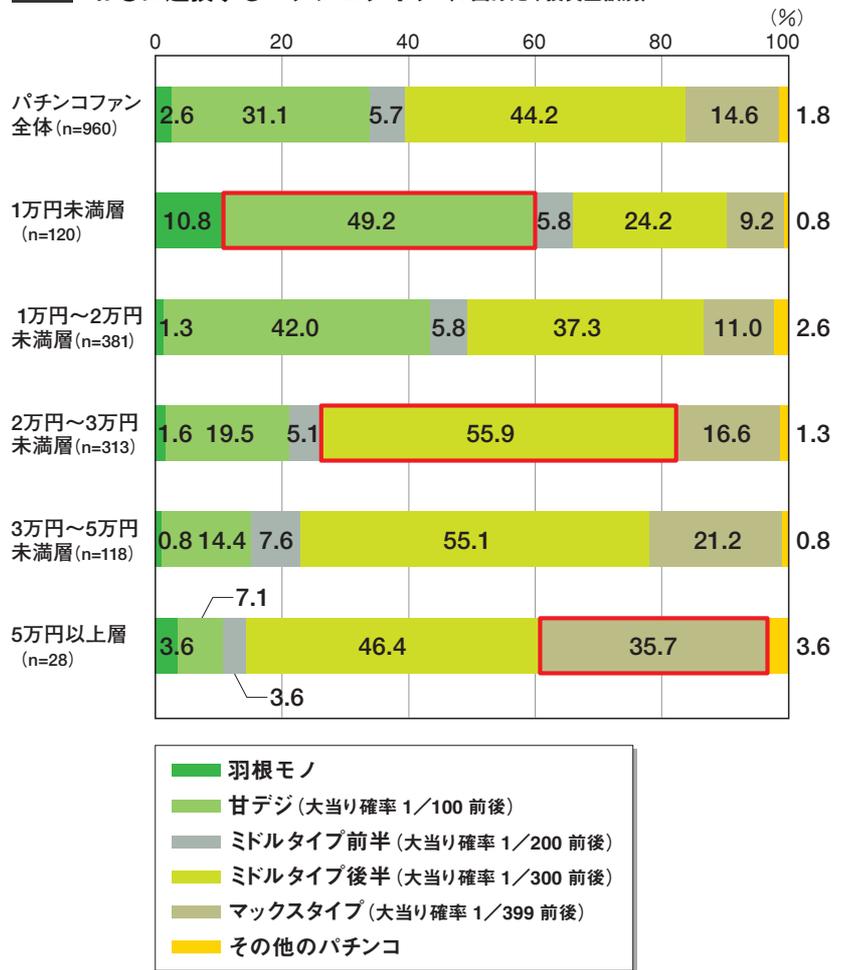


図5 おもに遊技するパチスロタイプ

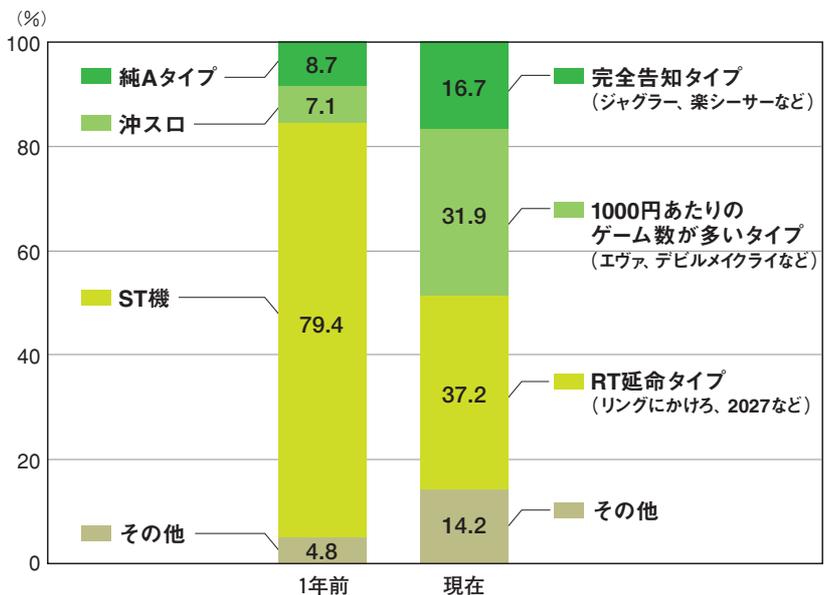


図10 パチンコファンにおける低玉貸しパチンコ・パチスロの遊技経験者率

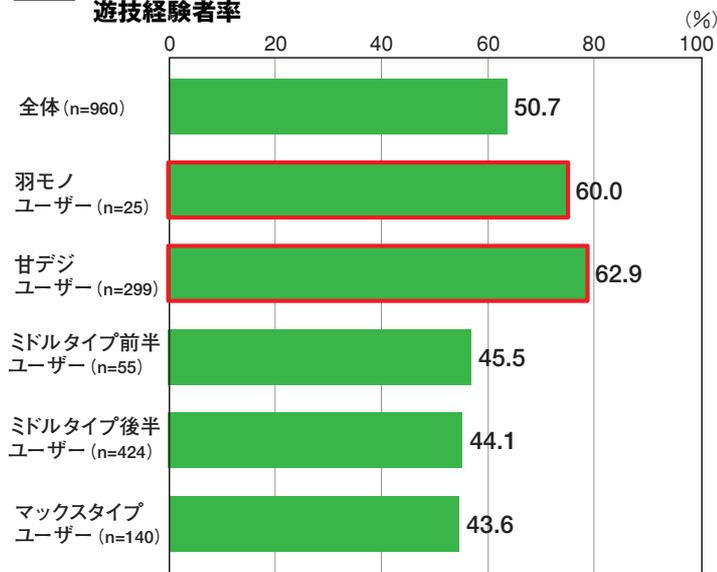


図11 パチンコファンにおける低玉貸しパチンコ・パチスロのリピート意向 (経験者ベース n=487)

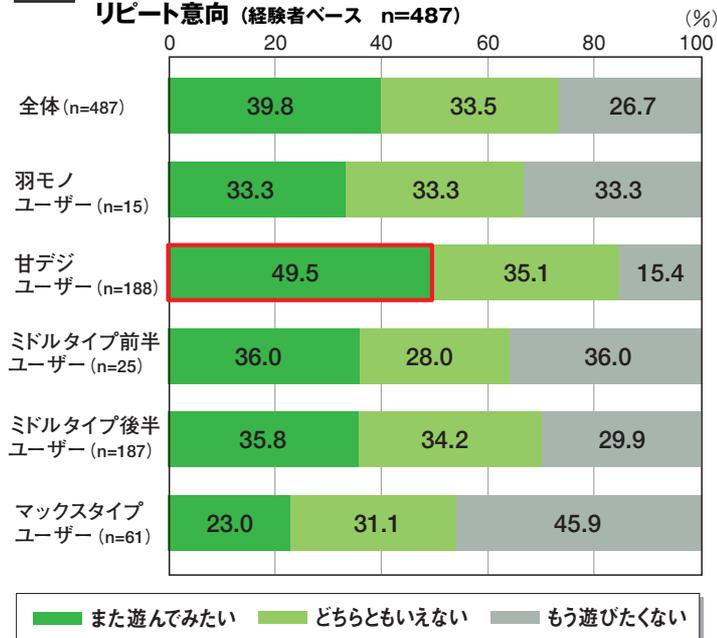


図6 パチンコファンのパチスロ5号機評価 (n=960)

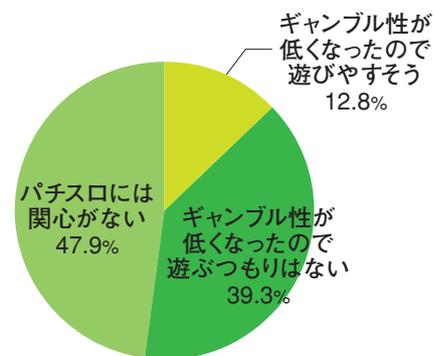


図7 パチスロファンのパチスロ5号機の射幸性評価 (n=957)

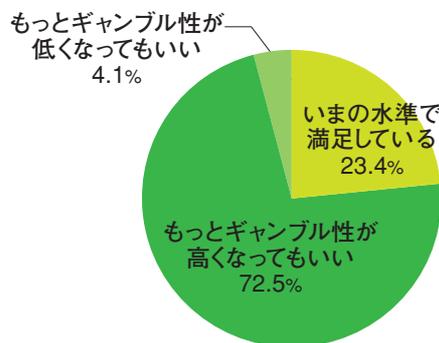


図8 低玉貸しパチンコ・パチスロのリピート遊技意向 (経験者ベース n=1,070)

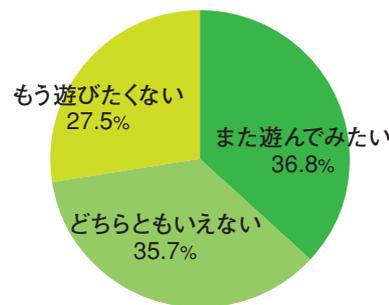
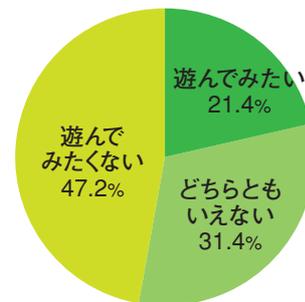


図9 低玉貸しパチンコ・パチスロのトライアル意向 (未経験者ベース n=1,239)



意向を尋ねた(図8、図9)。「また遊んでみたい」というリピート意向率は36・8%。一方、「これから遊んでみたい」というトライアル意向率は21・4%。

回答者は現在パチンコ・パチスロを遊技している層なので、トライアル遊技のハードルは低い。この21・4%の層はすぐにも試すかもしれない、「明日の低玉貸し遊技客」といえる。新規顧客掘り起こしだけでなく、パチンコ・パチスロからの「離反者予備軍の受け皿」としての低玉貸し営業という視点に立った営業スタイルの確立も必要だろう。

▲

現行ユーザーによる 低玉貸し市場の形成予測

低玉貸し(パチンコ・パチスロ)遊技の経験率、リピート意向率※1、トライアル意向率※2から、各ブロックにおける現行ユーザーによる低玉貸し遊技市場形成にどのような違いがあるかを図示した。図の濃い色の部分が現実的参加割合で、薄い色の部分がポテンシャルを示している。

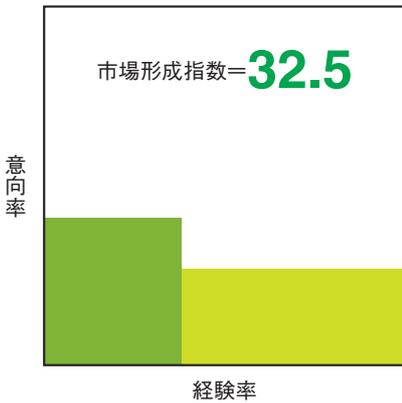
四国ブロックは低玉貸し遊技経験者率は少ないがリピート意向率が最も高い(図A)。また低玉貸し遊技未経験者層のトライアル意向率も全ブロックの中で2番目に高くポテンシャルも高い。北海道ブロックは経験者率が高いため顕在化率はもつとも高い(図D)。しかし、未経験者層のトライアル意向が極めて低いため、今後の市場形成指数は中位となった。

これらはいくまでも現行ユーザーによる市場形成の指標であるが、低玉貸し営業には、パチンコ・パチスロから離反しかかっているユーザーの受け皿としての機能があるのも現実である。トライアル意向の高いブロックでは、現行ユーザーを失望させない低玉貸し営業という点に留意するべきだろう。

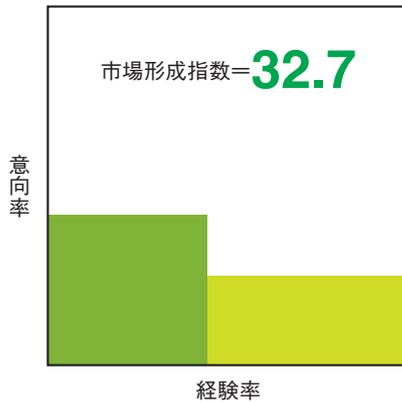
※1:低玉貸し遊技経験者の中の「また遊技したい」人の割合
※2:低玉貸し未経験者の中の「遊技してみたい」人の割合

[A]

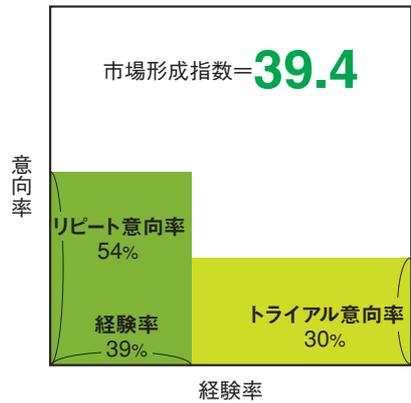
図C 九州ブロックの市場形成



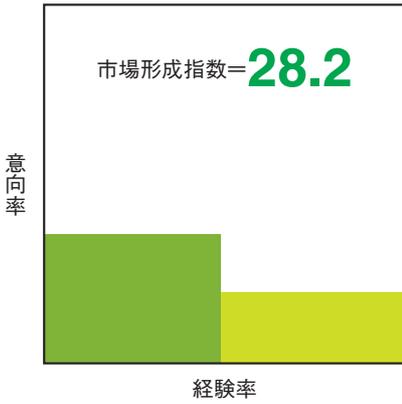
図B 東北ブロックの市場形成



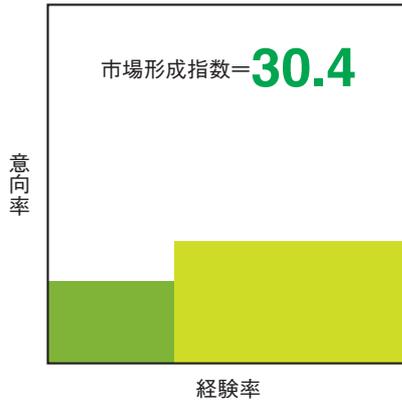
図A 四国ブロックの市場形成



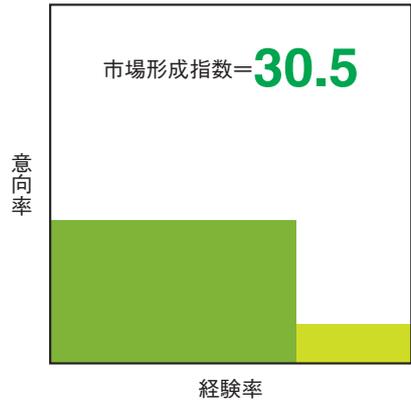
図F 関東ブロックの市場形成



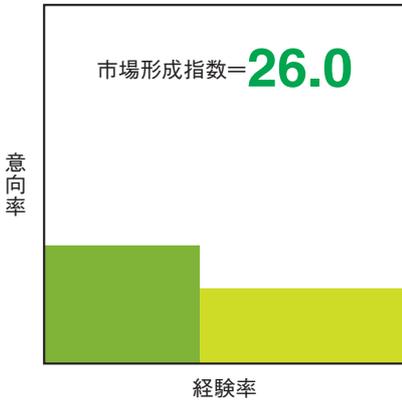
図E 中国ブロックの市場形成



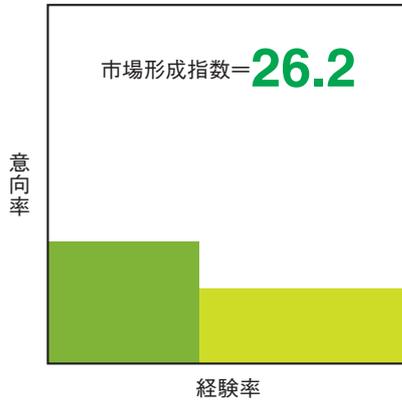
図D 北海道ブロックの市場形成



図I 東京の市場形成



図H 中部ブロックの市場形成



図G 近畿ブロックの市場形成

